

「医療圏の広域化」と「秋田県の医療」に関する意識調査

調査の目的

現在、県では、「秋田県医療保健福祉計画」の見直しを行っているなかで、一般の入院にかかる医療を提供するための地域的単位である二次医療圏を、現行の8つから、広域化することを検討しています。

現在よりも広い枠組の中で病院同士の役割分担と連携を話しあっていくことにより、医療資源の有効活用を図り、人口が減少しても、引き続き県民の皆様が安定的に医療サービスを利用していける体制をつくりあげていきたいと考えているからです。

そのため、皆様の医療圏の広域化についてのお考えや、秋田県の医療についてお考えを伺い、今後の取り組みの参考としたいので、調査にご協力くださるようお願いします。

回答の前にご覧ください

二次医療圏とは

入院にかかる医療を提供するための地域的単位であり、国が定める見直し基準のほか、地理的条件等を考慮して都道府県が定めることとされています。

県の医療施策では、基本的には、二次医療圏ごとに医療提供体制の充実・強化を進めています。

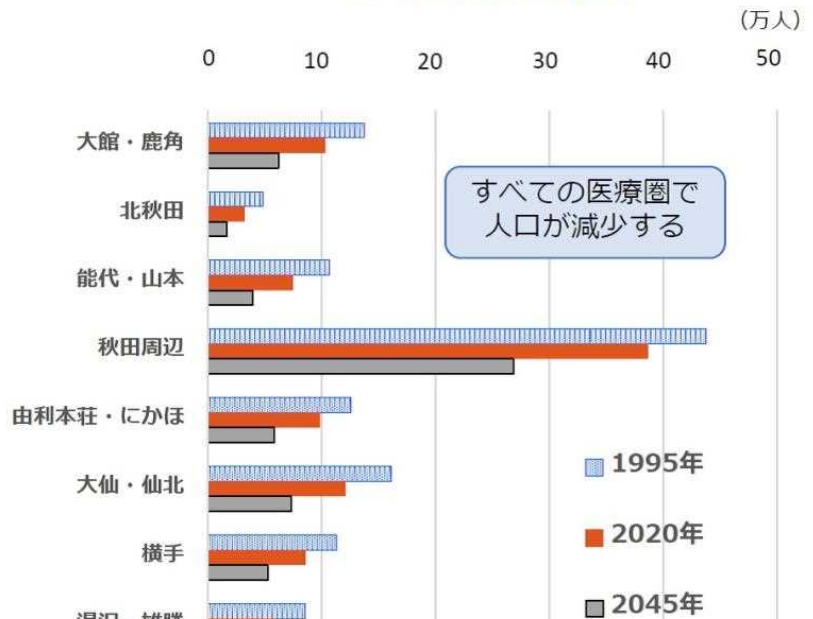
秋田県の二次医療圏の現状

現在、秋田県の二次医療圏は8つありますが、すべての医療圏で人口が減少しており、今後もその流れが続くことが見込まれています。

現在の二次医療圏（8つ）



医療圏別人口推移

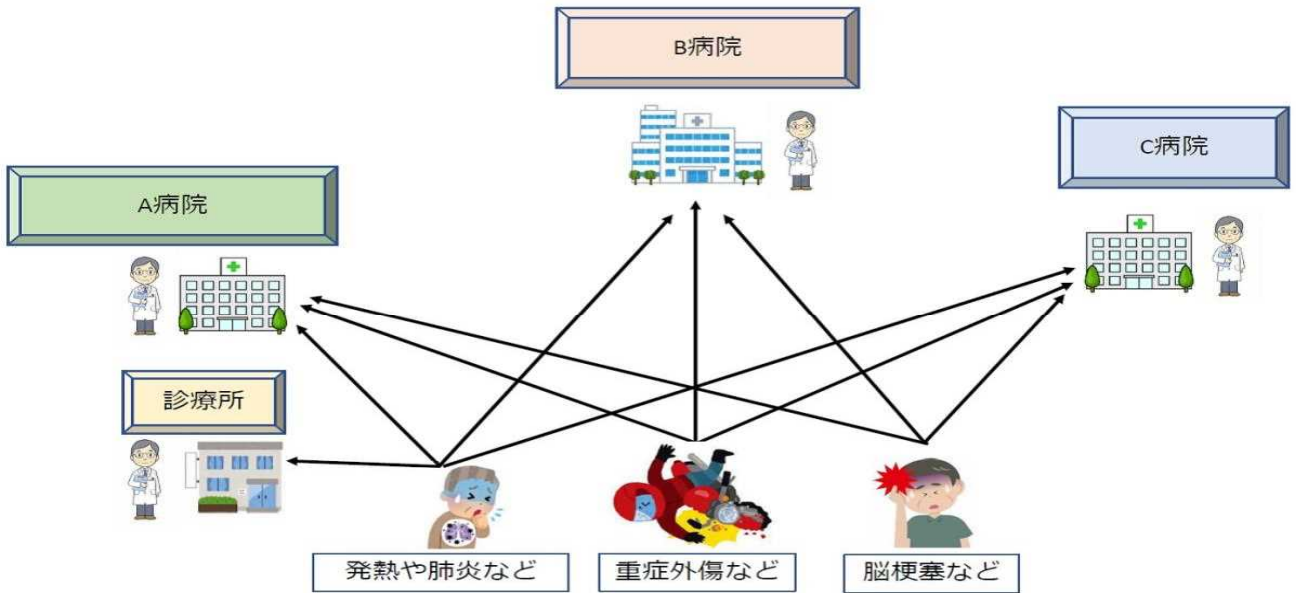


出典：総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018推計)」

人口減少の医療への影響

現在の8つの医療圏の多くは、圏域内に同様の役割を持つ病院が複数存在し、患者が分散しています。このままでは、人口減少によりそれぞれの病院で患者・症例が減少し、病院経営が悪化していくほか、医師等の医療技術の維持・向上が困難となることが心配されます。また、研鑽の機会を求める若手医師が県外に流出するなど、圏域における医療機能が低下する恐れがあります。

地域医療の現状（地域に同様の機能を持つ病院が複数存在）



各医療機関は、幅広い症例に対応できる体制を整えなければならない。
患者が分散するため、各医療機関の症例が少なくなる。

症例数が分散すると・・・

秋田県

最近、手術が少ない

経験を積む機会がない

人口が減少すると、専門的な手術を必要とする患者や症例が減少

- 地域全体の医療機能の低下
- 若手医師に魅力のある医療機関の減少

都市部（県外）の病院

もっと症例の多い病院で学びたい
やっぱり、都市部の病院が良いか

(若手医師)

医療の質が低下したり、若手医師の県外流出を招く可能性がある。

秋田県の目指す医療の姿とは

目指すのは、

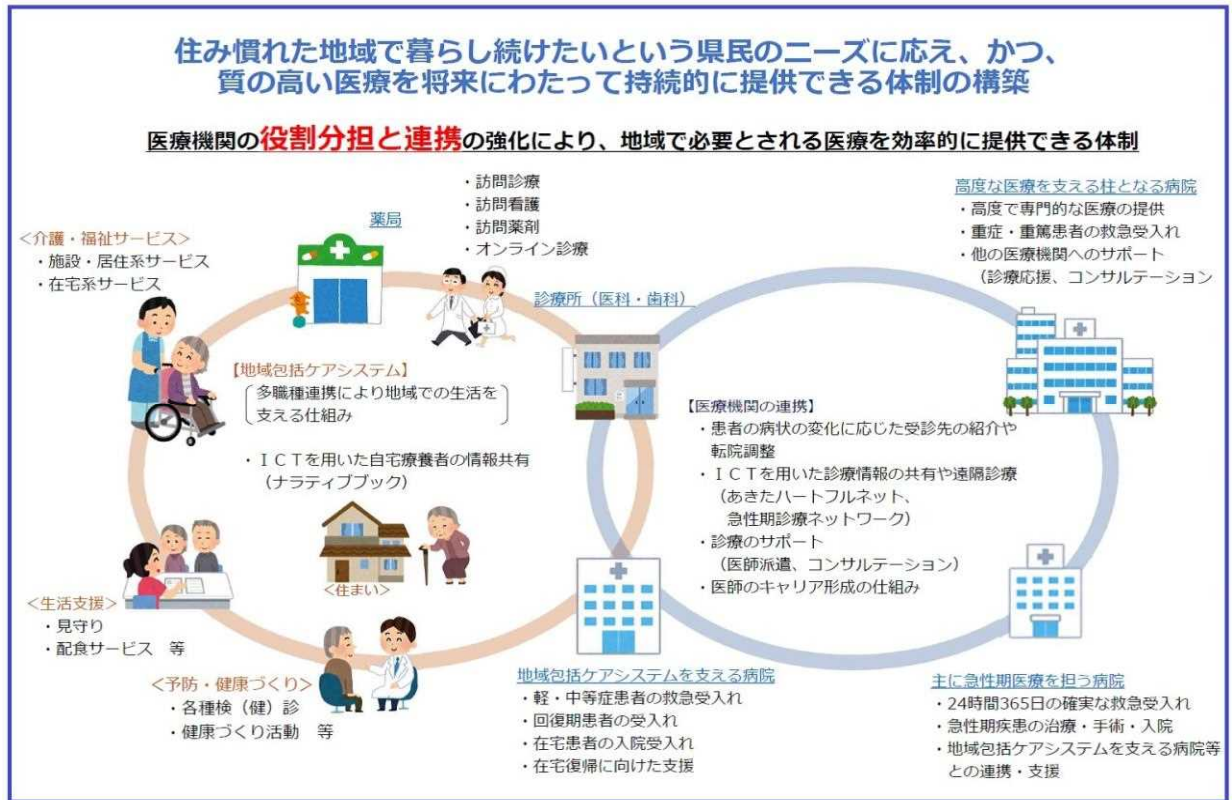
⇒『住み慣れた地域で暮らし続けたいという県民のニーズに応え、かつ、質の高い医療を将来にわたって持続的に提供できる体制』です。

そのために必要なのは、

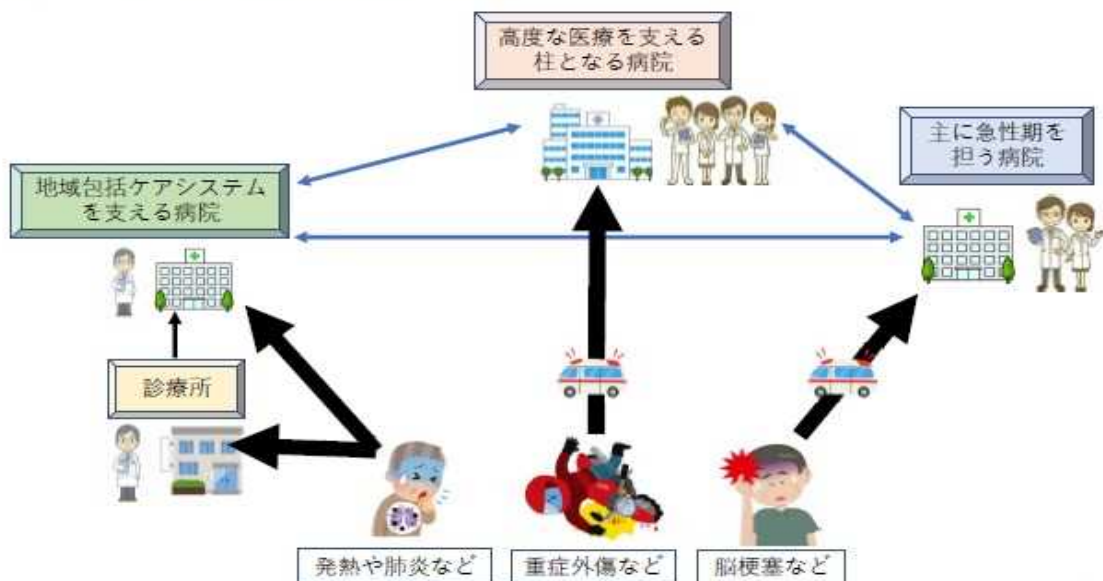
⇒医療機関の役割分担と連携の強化による、医療の効率的な提供であると考えています。

その前提条件は、

⇒限りある医療資源の有効活用のため、また、医療の選択肢を増やすため、二次医療圏を広域化することが必要であると思っています。



役割分担が進んだ姿



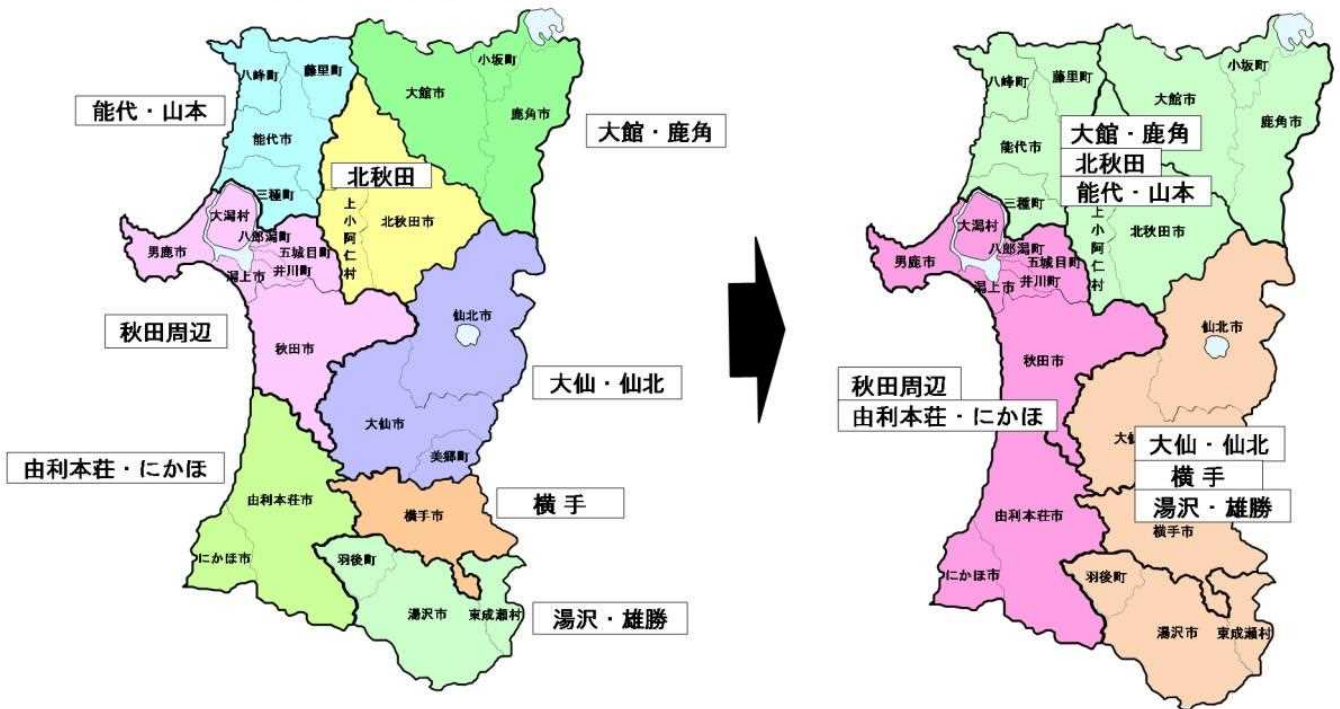
広域化した二次医療圏ごとに、必要な医療を確実に提供。

二次医療圏の見直し案について

秋田県が考えている二次医療圏の広域化の案は次のとおりです。

現在の二次医療圏(8つ)

見直し後の想定案(3つ)



※ご留意いただきたい事

二次医療圏の見直しは、病院等の広域的な役割分担や連携の強化による、必要とされる医療を効率的に提供できる体制づくりを目指すものであり、**患者の受療行動を制限するものではありません。**

また、**直ちに、病院の統廃合や病床削減を要請するものではなく、拠点となる医療施設を二次医療圏に1つとするものでもありません**（複数あってもよい）。

アンケートの回答について

秋田県電子申請・届出サービスから回答いただけるほか、FAXや電子メール、郵送でも受け付けています。

詳細は、秋田県公式WEBサイト「美の国あきたネット」をご覧ください。

FAX番号 018-860-3883

E-mail lmuyakujika@pref.akita.lg.jp

郵送 〒010-8750 (住所記載不要) 秋田県庁医務薬事課あて



「美の国あきたネット」調査のページ



「電子申請・届出サービス」調査のページ

【お問い合わせ】秋田県 健康福祉部 医務薬事課 調整・医療計画チーム

TEL 018-860-1401